

打上げて、そこに雷を落とす誘雷実験施設だった。この実験では安全のために人間は地下壕の中へ避難し、雷雲が消え去るまでは一步も外へは出られないとのことで、まるで雷の空襲をうけているみたいであろうと想像された。その他、気球を用いて雷雲内の電場や大気導電率、降水粒子の電荷の観測等も行っているそうである。アメリカにおける大気電気学研究的活動的な雄大さの一端に触れた思いである。(牧野雅彦)

### 7. おわりに

この会議中に行われた ICAE の委員会では次の3つのことが決まった。1. 委員の補充, 2. 次回第8回国際大気電気学会議を1988年にスウェーデンの Uppsala で開催すること, 3. 委員会のサブコミッションを改組して次の6つとすること。

#### I. Standard, Method and Applications (委員長

H. Dolezalek)

II. Global Circuit and Solar Terrestrial Relations  
(R. Reiter)

III. Atmospheric Electricity on Other Planets (L. Lanzerotti)

IV. Ions, Aerosols and Radioactivity (M. Takagi)

V. Clouds, Precipitation and Thunderstorm Electricity (J. Latham)

VI. Lightning and Sferics (S. Lundquist)

サブコミッションの活動について御意見のある方は、それぞれの委員長と積極的に連絡をとられるようおすすめします。

最後に、1988年の第8回国際会議に向けて、今から論文発表の準備を進められるよう、特に若い研究者に希望します。(ICAЕ 委員長 小川俊雄)

## 日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
第10回レーザ・レーダ(ライダー)シンポジウム	昭和60年5月16日・17日	レーザ・レーダ研究会	福井県芦原町
日本気象学会春季大会	昭和60年5月22日～24日	日本気象学会	気象庁
月例会「第29回山の気象シンポジウム」	昭和60年6月15日		気象庁
第22回理工学における同位元素研究発表会	昭和60年7月1日～2日	関係諸学協会共同主催	国立教育会館
International Cloud Modelling Workshop /Conference	1985年7月15日～19日	WMO	Irsee (ドイツ)
First WMO Workshop on the Diagnosis and Prediction of Monthly and Seasonal Atmospheric Variations over the Globe	1985年7月29日～8月2日	WMO	メリーランド大学(米国)
IAMAP/IAPSO 1985年ハワイ合同研究集会	1985年8月5日～16日		ハワイ州ホノルル
第23回国際地震学・地球内部物理学協会(IASPEI)総会	昭和60年8月19日～30日	地震学会ほか	京王プラザホテル
第3回エアロゾル科学・技術研究討論会講演	昭和60年8月22日・23日	エアロゾル研究協議会	東京理科大学
第3回アジア流体力学学会議	昭和61年9月1日～5日	アジア流体力学学会議委員会	日本都市センター